

今昔物語 第23話

市内の石造物

◎三箇城跡顕彰碑

三箇城は三箇キリシタンと共に世に聞こえながら、全貌は定かではありません。深野池(現在の大東市の中央部全体)の中で最大の島に築かれ、四方を池と水田に囲まれた要がいの地にありました。現在この碑は、三箇菅原神社前に建っています。



◎廃水月院墓石辞世歌

三箇菅原神社の西隣に10基ほどの墓石があって、土地の人たちは当地を水月院跡と呼んで、明治初年には上三箇の集会所にも使用されました。以上のことから、当院は三箇菅原神社に付属する寺院の宮寺でしたが、明治維新の廃仏毀釈により廃寺になったと考えられています。



城ノ灰埋は土となるものを
何を此代に思ひ残さん

◎御領の地蔵

この地蔵は、戦国の世の武士であった、頼尊越後助という人が、永禄元(一五五八)年8月に生前供養のため大乘妙典(法華経か大般若経などと思われる)千部を僧侶に読んでもらった記念に造られたものです。

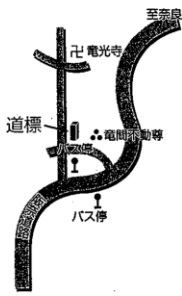
永禄元年は、戦国の世・三好長慶が室町幕府の重臣とし畿内を平定、同3年飯盛城に入城する時期です。この戦乱の世に活躍した武士・頼尊越後助(三好方に加勢したかは不明)の存在と、頼尊越後助を含めた武士の明日をも知れない生活の中での信仰を知る上で貴重な資料です。

今昔物語 第24話

市内の道標

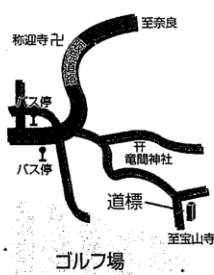
◎龍間経寺の道標

古堤街道から中垣内越えの大和に通じる街道沿いの場所にあるこの道標は、以前、上部の文字しか読めませんでした。そこで昭和54年、地元の協力を得て掘り起こすと、高さ百四十センチの堂々とした姿を見せ、原状に復しました。



◎宝山寺道の道標

この道標の立っている街道は、交通網の整備・ゴルフ場の建設などにより、古道は至る所で寸断され、そこを通る人もほとんどなく、時の流れを感じさせられます。



◎石造九・十三重層塔

九重層塔 野崎観音裏山
十三重層塔 竜間不動尊内・電光寺内 寺川不動院内
塔は3・5・7・9・13の奇数層塔に造られる場合が多いです。材質は石造、木造、金属性などがあります。層塔は石造の供養塔の中で一番古く、奈良時代にさかのぼります。個人や集団でそれぞれ死者の霊を弔い、また造立者自身の功德を塔に祈願しています。